

出来る時に、
出来る事を、
出来る人がヤル

さんさん

燦燦ニューズレター

発行
上智大学金祝燦燦会
〒102-8554 千代田区紀尾井町 7-1
上智大学ソフィア会事務局気付

会員募集 - ソフィア会の協力で祝賀会に参加し会員の勧誘に努めました



1972年卒の祝賀会の様子

待ちに待った金祝を迎えた方の祝賀会が解禁となり、10月に入って最初に1972年卒、次いで71年卒、70年卒の祝賀会が3回にわたり開催され、燦燦会ではそれぞれの会でテーブルを設け勧誘を行いました。畔柳会長は「ソフィア会のご理解とご協力によりこの度3年度分の祝賀会に正式に参加することができ、金祝を終えても燦燦会が仲間同士との対話の機会と場を提供していること、そして、海外からの留学生を支援する活動に学院・大学と共に携わることができること」等を訴えました。さらに、「燦燦会役員には『出来る時に、出来る事を、出来る人がヤル』をモットーとして頑張ってもらっています。今回、ソフィア会に祝賀会への参加を認めていただいたことによって、大学主催の金祝式典への出席、金祝実行委員会とソフィア会による祝賀会への参加、そして、燦燦会への入会が自然な流れとなることを期待しています。これにより、コロナ禍前は毎年40名近くの方に入会していただいていたのでそのレベルまで達し、燦燦会の財政が安定することを願っています。」と述べました。

第9回留学生による日本語スピーチコンテスト

優勝したデボノさんと畔柳会長
Jordan De Bono

ASF2023 では、2019 年以来の対面による第9回スピーチコンテストを開催することができました。優勝は「日本の五感」と題してスピーチしたマルタのデボノさん。「他の予定を差し置いても」とコンテストに駆けつけていただいたサリ理事長が参加の学生に励ましの言葉をかけてくださったのは何よりでした。また、ご自分は留学生のスピーチコンテストに最初から携わっていること、そして燦燦会の活動についてはいつも注視していると熱く語ってくださったのには会員一同感激しました。

下記は優勝したデボノさんによる報告です。彼はこの秋に博士前期課程(グローバル社会専攻)を修了し、現在、ブリュッセルのヨーロッパ議会で外交官を目指して頑張っています。

Kinshuku-Sansankai, Sophia's resident alumni Goldenagers' Club, has simply been wonderful to me and the international community of Sophia. Generous in both time and money, ever curious about your origins and home country, and immediately supportive at a moment's notice. The club served as my primary avenue of participation with Sophian events; haiku and essay competitions, speech contests, and monthly presentations were amongst such events that I involved myself in. Haiku competitions were perhaps my favourite, as the competition's structure remained as inclusive as possible, and granted students the ability to try their hand at writing not only English haiku, but Japanese ones as well. The Sansankai speech contest is also a highlight. It runs alongside Sophia University's own speech contest, but takes on a more relaxed and informal approach, better suited towards beginners of the Japanese language.

On a more personal level, I appreciated the genuine level of interest that members of the Club showed in myself and my country Malta, as well as in my career dream. Coming from a relatively unknown country such as my own, the Sansankai members immediately made me feel welcome and unique, and this sentiment lasted throughout my entire run at Sophia University. This interest works both ways – the club was also more than willing to share Japanese culture with us. All participants of Sansankai's speech contest, for example, were gifted a yukata, and furthermore given free instruction on how to properly wear it.

I currently write this memoir in Brussels, Belgium, where I moved to after completing my degree in Tokyo a few months ago. This therefore has given me some perspective when reflecting on my time and life in Japan. The country, and specifically Tokyo itself, is truly a wonderful blend of enormity and efficiency. Japanese society, like any other, does have its drawbacks. But what cannot be taken away from them is the incomparable level of organization at which they operate. Every timetable is honoured; any product or service is as advertised. And all is done so with a consistent dose of politeness and conscientiousness that remains second to none the world over. And it must be said that these qualities also extend to my experience at Sophia University, which delivered on its promise of a relevant and international Master's degree with good employment prospects upon graduation.

Thank you Kinshuku-Sansankai for the memories, and until next time!

俳句コンテスト — 英語句の和訳は奇跡？

英語俳句の和訳について江澤さんと谷地元さんに聞きました



燦燦会の留学生による俳句コンテストは今までに12回開催され、間もなく13回目の募集が始まります。注目されているのは、日本語を母語としない留学生による日本語の俳句はもちろん、佐久間前理事長に「英語の句を相応しく和訳されるので、英語の詩がまさしく俳句になるという奇跡を毎回、目の当たりにすることができました」とコメントしていただいた英語俳句の和訳です。和訳俳句は今では俳句コンテストの「目玉」になっていると言っても過言ではありません。

今回の特集では、俳句コンテストの開始時から10回に亘って和訳を担当された江澤健二さん(60 文英)と昨年担当していただいている谷地元瑛子さん(69 外語)のお二人に俳句の和訳についての苦労話や楽しみなどについて語っていただきました。司会はソフィア俳句会の会員である燦燦会の後藤洋さん(68 理物)にお願いしました。なお、この対談は文書による質問に答えていただきインタビュー形式に編集したものです。

— まずお二方の俳句と英語に関わる自己紹介をお願いします。最初は江澤さんからお願いします。



江澤さん 私は英文学科を 1960 年に卒業し、日本航空に就職して 61 歳までサラリーマン生活を送りました。その後年金生活に入り 25 年ほど経ちます。俳句は中学生の時に教科書で知りました。興味を覚えて半年余り俳句を作りましたが、長続きしませんでした。ところが 60 歳近くになって改めて興味が湧き、再び俳句を作り始めて今に至っています。

— 谷地元さんは、俳句のオリジナル「俳諧の連歌」の形式を継いでいる「連句」という文芸上の世界に居られる訳ですが…



谷地元さん 1969 年卒の私はもっと勉強したかったという飢餓感を持っていました。けれど、35 才で U of M (ミネソタ州立ミネソタ大学英語英文学科)に学士入学できたのは幸運以外の何ものでもありません。飢餓感をみたすどころか必須リーディングリストに驚き、読まずに授業に出ては何も学べない展開、教授の学問愛にたじたとになり、アップアップする毎日でした。二つ目の BA をいただき晴れて卒業した時のことです。若い米国人同級生:『この先日本で何をするの?』私:『言語学と文学をまたぐ仕事をしたい』具体的な答えはなかったのです。帰国しある地方短大で英語を担当したとき、非常勤講師室で出会いがありました。1992 年に Renku・North-America という前代未聞の国際交流企画があり、日本を代表する連句人たちが米国各地の俳人たちに連句を実座を通して紹介するキャラバンが組まれました。キャラバンに参加し米国から帰ったばかりのお一人がその短大の国語講師でした。彼女のおかげで私は近代俳句の母体である連歌連句の戸口に立ちます。新しい世紀を意識してか連句が本格的にボーダーレスになろうというタイミングでした。これこそ言語学と文学をまたぐ仕事だと確信。それ以来はずかしながら、連句人を名乗っております。

— 有難う御座います。それぞれのご経験の上で「留学生俳句コンテスト」を担って戴いているのですが、日本語翻訳句化へ考慮されている基本となる手順みたいなものはあるのでしょうか？

江澤さん まず直訳をして内容を把握します。知っている単語でも念のために辞書で確かめることが度々あります。そして原句の内容に出来るだけ忠実な和訳を考えます。

谷地元さん 手順として意識化されたものではありませんが、原句をゆったり詠むことを心がけています、時間をかけるというより回数かもしれません。朝読んだら、夜にも、次の週にはお昼かもしれません、何回か自分の状況が異なる場で触れますと、作者の詠んだ句の命がそのまま眼前に立ち上がる瞬間が来るように感じます。翻訳前にイメージをつかめる瞬間です。

— 原句では必ずしも明瞭でないケースがあると思いますが、和訳に際して季語の斡旋にはどんなご苦労がありますでしょうか？

江澤さん 季語の無い場合。例えば The rain touch the soil/ The soil touch the flowers/ Then flowers colored. (第 7 回優秀作「雨に濡れ土に育ちて七変化」)という句。この flowers を「花」と訳せば季語ですが、「桜の花」のことになります。しかし桜の花を詠んでいるようには思われません。私はこの花は紫陽花だと思いました。紫陽花は雨の時期の花です。土壌がアルカリ性ならピンク色に、酸性なら青色に咲きます。紫陽花とすると 4 音で字足らずになるので七変化としました。紫陽花は色が次第に変化するので七変化とも呼ばれます。

また複数の季語が使われている場合は、出来るだけ一つの季語だけを取り上げて和訳します。例えば Feel the warm night air/ Listen to the cicadas/ Singing for summer (第 7 回優秀作「夜気に触れ耳傾けよ蟬の声」) warm、cicadas、summer のうち cicadas を取り上げました。

谷地元さん たとえば、原句の SVO「leaves change color」を季語の体系を持つ日本語では用言にも体言にもできません。もみづると訳しておさまらなければ、楓、色葉、照葉、紅葉、黄葉、などという季語のなかから句全体を生かすものを選ぶなどします。前回のコンテストの優秀作 one minute away from being late/ my footsteps move like torrential rain/ rushing into the summer ground を 5-7-5 にするのはまさに俳句サーカスでした。遅刻寸前の自分が発する足音を夏の土をたたきつける豪雨の雨足の音に見立てる原句を「あと一分夏の土砂降りわが足音は」と訳しました。季語: 夏 は原句では土を形容していますが、和訳では雨を形容します。土砂降りの土が掛け言葉的に夏の地面を感じさせてくれることを祈って！

— 応募作品はどれも俳句の初心者作品です。そのフレッシュさを和訳のなかで表現するのにどんなことに留意されておられるでしょうか？

江澤さん 原句の言葉とリズムを生かすように心がけています。例えば When it comes to summer/ Please wear a yukata/ And go to Asakusa (第4回優秀作「夏なれば浴衣召しませ浅草へ」)

谷地元さん ~ごとし、~けりなどを意識して避けることはあります。堂々と使うときもあり難しい質問です。お手本は留学生の日本語俳句かもしれませんが。ミクロネシアヤップ島出身留学生の日本語俳句、「夏の天日顔に輝くぬくもりだ」からはあかるい望郷がまっすぐ迫ってきて感動しました。



— 作者の出身国、母国語の違い、文化的バックグラウンドなど、和訳の上で考慮されることはありますでしょうか？

江澤さん そういう句に出会えば考慮すると思いますが、俳句は言葉数が少ないのでそこまで詠めないのではないのでしょうか。私はそういう作品にまだ出会ったことがありません。

谷地元さん 連句では恋の句が2~3句つづ流れを式目として定めています。(文化的バックグラウンドによって場面設定や叙景のもつ意味合いが異なり、大笑いになることあり) 恋の翻訳は至難の技かもしれません。翻って俳句は長い旅路の出発を意味する発句が起源です。詩人が世にはじまりの挨拶をするのが発句の基本であれば、感慨・決意、悟り、リリカルな即興詩などを背筋をのばしてつくる一息の句に、文化の差異が色濃く出ることは「ほぼない」と感じます。

— 英語俳句を英語のまま鑑賞した時に、その句(詩)のイメージが直ぐに明確に浮かんでくるものなのでしょうか？かなりの想像力が必要にも思えますが。英語俳句でも、短いだけに「述べられていないこと」が何か？と云う事を解釈する(見つける)ことが翻訳ポイントの一つになるのではないかと、思うのですが、それ(イメージ)を見出すことをどの様にご苦労されているのでしょうか？

江澤さん 鑑賞には多少なりとも想像力が必要ですね。例えば初雪を白い毛布に見立てた句。my lost blanket/ slowly descending from the sky/ first snow of winter (第8回優秀作「探してた毛布空から初雪だ」)。寒くなって来たので毛布を出そうとしている作者。引っ越しの時に持ってきた筈だけどどこに仕舞ったのだろう。ふと空を見上げると、ああ探していた毛布が落ちて来る。初雪だ。Mother Nature/ paints her canvas white/ to start over her piece once more (第6回佳作「キャンバスを母なる自然白く塗り」)原句の通り無季の句としましたが、whiteは雪ですね。

谷地元さん 言語化する前の詩人の脳裏に思いを馳せます。英語話者と日本語話者がおおよそ半々の連句の座におりますと、興行の運びによって、翻訳が大きな軸になります。句は全てその場で翻訳治定し連衆に示されます。日英のテキストに基づいて、それぞれの話者による付句が宗匠役に提出されるという段取りです。誤訳や誤解はすぐに見つかり、それについて率直な感想が取り交わされるのです。原作者は言語化以前の詩因に戻り、そこから、創造的な推敲がなされることもあります。二ヶ国語連句の座は皆が子供のようになる時空。その楽しさを思い出して英語俳句を翻訳しております。

— 英語句(詩)の翻訳に当って、その内容(イメージ)を日本語訳で正確に表現するのに 5-7-5 の音節ではどうしても収まり切れない場合があると思いますが、その場合何とか5-7-5の定型の納めるようにするべきか、あるいは元句の内容(イメージ)を大事にして字余りとか破調の句でも良しとするのか、どちらを重点として考えておられますか？この事に関してのお考えはありますでしょうか？

江澤さん Hiding from the cold/ Warm under my kotatsu/ Savoring mikanを「寒気から隠れ炬燵で蜜柑食う」(第6回優秀作)のように8-9と句跨りにしたり、Fragments of sunlight/ slow dancing in the wind/ the golden leaves of fallを「日にきらきら風にゆらゆら舞う落葉」(第9回最優秀作)のように6-7-5と上五を字余りにしたりしていますが、私は基本的には5-7-5の定型を重んじています。

谷地元さん 5-7-5の韻律はできるだけ守るよう努めています。過去に多くの人の前で翻訳句が披露される場において、韻律の助けがあると、即、俳句と認め喜んで受け取っている観衆の姿に触れたことが影響しています。ただし字余り、字足らず、変調によって詩が屹立するときそれはそれを大事にします。

— 本日は有難う御座いました。今回お忙しい中、燦燦会で年2回実施しております「留学生俳句コンテスト」において毎回注目されていて素晴らしい「英語俳句の和訳俳句」を発表して戴いている(いた)お二方に、それぞれの苦労話などを架空座談会形式でお話を戴きました。英語俳句(英語詩)の単なる和訳に留まらず、それを「俳句の形式で表現する」という極めてユニークで難しい内容豊かなことを続けて戴いております。参加されている留学生にとってもきっと素晴らしい日本留学の思い出にもなっていることと思います。これからもどうぞ宜しくお願いいたします。

— 最後に、燦燦会の俳句コンテスト、特に、英語句の和訳に格別な関心を持たれている永井敦子副学長(フランス文学科教授)と、永野仁美学生センター長(国際関係法学科教授)からお言葉をいただきました。

永井先生 「哲学者のサルトルは、書物は作家が見ず知らずの読者に向けた、返礼を求めない贈物だと考えました。翻訳者はその贈物を預かり、知性と感性を尽くし、自分の生きる場所と時代に根ざした言葉で新しい命を作品に授けます。時空を超えて作者と翻訳者の間に交わされるスリリングな魂の交流に立ち会える喜びは、返礼をカタログから選ぶことが普通になっている今、私たちが本当に求めている贈物とは何かを思い出させてくれます。」

永野先生 「俳句はわずかな言葉が醸し出す余韻でその場の情景を浮かび上がらせるものである。その言葉は、それを話す人たちの文化を背負っている。英語話者が作った俳句の和訳は、文化を超えて、何か共通の感動を見出す作業のように思われる。その感動・情景にぴったりの和語を探し当て、リズムよく表現する。想像以上に難しいけれども、とても楽しい作業のように思う。」

燦燦会の役員に聞く②

副会長 相川美子 (67 外独)



会員の皆さま、こんにちは。畔柳会長の方針「女性会員が力を云々」に沿って昨年11月から副会長を務めさせていただいております相川です。会長は事あるごとに「女性の視点から」、「女性の眼で」、「女性の立場で」とご指示をされますが、私自身は決して女性代表とは思っていませんし、また自分の考えが女性的との自覚もありません。

ただ某有名大学の教授達が唱えた「女子学生亡国論」が喧伝された頃に学生時代を送り、女子大生の就職はほとんど自力で情報収集をし、コネに頼らざるを得ず、職場では名刺はおろか名前すらなく、「事務所のオンナノコ」呼ばわりされ、「オンナノコ」から「オバサン」に「昇格」しながら定年(いわゆる自他共に期待された適齢期での「寿退社」)別名「A 級(=永久)就職」ではなく、男女格差の終着点まで勤めた経験から物申す背景には、積み積みもった(無意識の?)ウラミと、真正面からでなく斜めからもものを見る傾向があるかも知れません…。もともと外資100%だった勤務先内部では「女だから」がなかなか理解してもらえず、むしろ顧客先や出向先の日本企業で遭遇したこととのギャップに起因しているでしょう。

燦燦会はその成り立ちから、「オンナノコに言ってもシカタガナイ」感覚が普通の時代を長く過ごされて来た年代の方々が多数おられます。中には上智大学の女子学生受け入れ反対論者だった先輩も！会員の殆どは女子の卒業生がまだまだ少ない年代層です。ですから会長が「もっと女性会員の力を」とその方針を明確に表明されたことは、会員の皆さま、特に女性会員に向けられたと思っています。そして女性会員の活躍は必ず増えるであろうと、将来は悲観していません。後輩の女性達を見ていると、自由に、しなやかに、自然体で課題に取り組み、成果を出している人達が多いのに驚かされ、大変心強いです。「雇用機会均等法」がその名の通り「機会均等」であるように、女性には機会すら無かった時代を経て、機会さえあればだれでも力を発揮できるのです。自分から機会を求めて、トライが出来る燦燦会です。ぜひチャレンジして下さい。

目の前にいるのに、面と向かって「なんだ、誰もイナイノ?」と言われていた元オンナノコとしては、与えられた機会「副会長」ではなく、名前を呼んで頂ければ十分ですが、「ダレかオトコノ人と替わる」にはお話の中味が分からないと、誰と替わるのか判断できませんのでぜひお声をお聞かせ下さい。発信して下さい。残念ながらコロナ禍で会員の皆さまとお顔を合わせる機会が激減しました。その影響は予想以上に大きく、深刻なものでした。出歩く機会が無い、体力も意欲も無いとしても、せめて毎月の留学生講演会に ZOOM 参加をなさいませんか？留学生の話に耳を傾けませんか？ご参加をお待ちしています。そしてこの3年間新規会員募集が出来なかったことで、存続の危機が案じられる燦燦会の将来に繋がるヒントをお授け下さい。「副会長」としての切なるお願いです！

金祝燦燦会 - 最近こんな活動をしています(2023年1月~10月)

☆2023年1月に第11回俳句コンテストの表彰式を Zoom で開催しました。☆2月にソフィア会主催の72年卒対象の「語らいの場」で会員獲得に努めました。3名の入会がありました。☆4月にニュースレター第7号を発行しました。併せて千円募金のお願いをしました。☆5月に対面とリモートのハイブリッドで総会を開催し、会務の報告を行いました。ハイブリッドの操作は苦戦中で、まだ習得が必要です。☆同じく5月に燦燦会の活動を紹介する 11 分のビデオを公開しました <https://youtu.be/CH0vbh4npio> ☆2023ASF で「お休み処」を設け、会員同士の親睦、留学生との交流に努めました。☆同じく ASF で、燦燦会主催、ソフィア会協賛の留学生による日本語のスピーチコンテストを実施しました。会場は文化祭のりでディスプレイされ、手作り感満載になりました。☆ソフィア会からスピーチコンテスト参加者10名全員に浴衣が提供され、燦燦会で7月の浴衣デーのために着付け教室を開催しました。男物の指導には会員外ですが入船亭扇治師匠(86 文新)がご協力くださいました。☆7月に第12回俳句コンテストの表彰式を Zoom で開催しました。☆8月に奨励金の授与式を対面で開催しました。紀尾井亭「葵の間」に留学生と学院・大学関係者も交えて歓談が拡がりました。☆同じく8月に留学生夢支援募金の懸賞論文の予備審査を行い4名を選抜しました。☆9月に新入会員勧誘のパンフレットを作成しました。新入会員の獲得は燦燦会の存亡を左右します。☆10月にソフィア会の協力により、1970年、71年、72年卒の祝賀会に燦燦会のテーブルを設けることができ、会員の勧誘に努めました。☆さらに、10月にはニュースレター第8号発行の準備をし、留学生夢支援募金懸賞論文の最終審査に携わっています。

なお、会員による運営会議は毎月、そして、留学生による講演会もリアルまたはリモートで原則、毎月開催しています。

募金状況

YouTube が視聴できます



一口千円募金: 68 件、648,500 円(10 月現在)です。今年度も目標達成に向け、よろしくお願いします。

編集後記: 燦燦会の留学生支援活動を会の設立時から見守っていただいている前総務担当理事のサリ先生が、佐久間前理事長に代わり上智学院の新しい理事長に就任されました。おめでとうございます。燦燦会にとって心強い限りです。ASF では就任早々のお忙しい中「他の予定を差し置いても」とスピーチコンテストに駆けつけていただいたのには全員感動しました。役員一同、理事長のご期待に叛かないように「出来る時に、出来る事を、出来る人がヤル」の精神で留学生支援に励みます。今年の燦燦会の活動を振り返ってみました。皆様の活躍の場はいくらでもあります！直接お手伝いいただければありがたいのですが、留学生の Zoom 講演会に参加していただくだけでも私たちの励みになります。金祝の祝賀会が解禁となり、ソフィア会のご配慮により会員獲得のため正式に参加することが認められました。金祝の式典、祝賀会、そして燦燦会への入会が自然な流れとなる、つつい夢を見てまいります。江澤さんと谷地元さんの対談、大変興味深いお話で引き込まれます。まさに、永井副学長がおっしゃる「時空を超えて作者と翻訳者の間に交わされるスリリングな魂の交流」を披露していただきました。燦燦会のスピーチコンテスト、俳句コンテスト、そして論文提出まであらゆるイベントに参加してくれたマルタ出身のデボノさん、卒業してしまいましたがベルギーから快く寄稿してくれました。彼の夢が実現することを願っています。(MI)

留学生の言葉

会員の皆様による「一口千円募金」を原資とし、燦燦会の活動の原点ともなっている海外からの留学生を支援する「金祝勉学奨励金」は今年で11回目となりました。授与式は8月4日に紀尾井亭「葵の間」で久しぶりに対面で行われ、なるべく多くの学生を支援するため9ヶ国15名の留学生に各5万円、計75万円が支給されました。当日は試験も終わって一時帰国した学生が多く、式に参加したのは6名に止まりましたが、学院及び大学より大塚寿郎総務担当理事、永井敦子副学長、柳澤広美学生局長、中村史子ソフィア連携室長、ソフィア会より渡邊英司事務局長など多数が参加され、総勢34名となりました。授与式後に久しぶりに懇親会を開催することができ、留学生との交流、そして大学関係者との懇談を楽しみました。当日参加できなかった学生には後日、目録が送られました。今回も受賞学生から心のこもった礼状が届きました。下記はその抜粋です。



KNAB ARDEN JOSHUA クナブ アルデン、総合グローバル学科、ドイツ連邦共和国

I assure you that I will utilize the scholarship funds judiciously, primarily towards covering my tuition fees, purchasing essential study materials, and participating in academic conferences and workshops. Furthermore, I will dedicate a portion of the scholarship towards enhancing my language skills and cultural understanding through immersion programs and activities, fostering cross-cultural dialogue and a deeper connection between Germany and Japan.



WINARTO ALEXANDER DANIEL イナルト アレクサンダー ダニエル
物質生命理工学科、インドネシア共和国

Indonesia's living standards are so different from Japan. There have been some issues for me trying to enjoy my university life to the fullest. My main source of income is my mother (a single parent), so with the help of this scholarship, it would put me at ease at least for one whole month, because I can pay for my dorm rent. I would like to say a deep thank you from the bottom of my heart. I cannot express how grateful I am for this scholarship opportunity,



VO NGOC HA ヴォ ゴック ハ、国際教養学科、ベトナム社会主義共和国

I also firmly believe in the importance of giving back to the community that has supported and nurtured me. Therefore, I am determined to utilize this scholarship to actively seek opportunities to contribute to society. Whether through volunteering for community service initiatives, mentoring fellow students, or engaging in outreach programs that promote education and social welfare, I am committed to making a positive impact and uplifting those in need.



ZHANG YANCHEN ジャーン イエンチェン、地球環境学専攻、中華人民共和国

上智大学の生活は私に多くの体験と収穫を与えてくれました。日本の方だけではなく、世界各国の有能な人々と一緒に新しい学問分野に触れて、持続可能性の国際視点から当地の環境問題を討論する中で、異文化理解の共通点を探ることが出来ました。グローバル化の過程で各国が環境変化にどう対応すべきか、人間社会と自然の共生、多民族共生を実現するためのあり方を考えさせられました。また、この2年近くの学習生活の中で、私は地球環境研究科の先生方について日本各地に行き、それぞれの地域の物産や文化を肌で感じ、地元住民と親しく友好的に交流し、各地が直面しているさまざまな環境や社会問題に触れることができました。私は留学生であると同時に旅行者でもあると思っています。私個人や仲間の経験を通して、日本の自然や伝統文化、そして持続可能な発展に向けた日本の努力を、世界中の人々に伝えようとする。



ORTILLO DAISY ROWIE ZAMORANOS オーティリョ デイジー、国際教養学科、フィリピン共和国

Through this scholarship, I plan to engage in more international exchange events for the younger generation. In my ideal future, everyone will benefit from our connectivity, regardless of our backgrounds. This is the most beneficial result for achieving peace and harmony in our society. Suppose circumstances change and new opportunities present themselves, I will remain open to them as long as they are consistent with my objective: to contribute to and promote the advancement of society, particularly in light of globalization trends.



GUJRAL SIMRAN グジラル シムリン、グローバル社会専攻、アメリカ合衆国

This research explores what Indian mothers consider important cultural values and the methods they use to transmit them to their children while raising them in the Japanese diaspora. My intended research methodology is the responsive interviewing method with 10-15 Indian migrant mothers. With this research, I want to understand how cultural identity is transmitted to children in a culturally different environment...With this scholarship stipend, I will save it for school and living expenses such as exam fees, textbooks, and utilities. I thank you for providing me with a stipend because it relieves financial stress and allows more focus on my academic career.



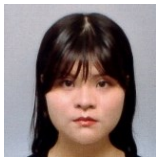
ROBLEDO ALMA NALLELY ロブレド アルマ ナイェリ、グローバル社会専攻、アメリカ合衆国

I was born and raised in America, my ethnic background is Mexican and our treatment is different from that of white Americans. Given this, I am interested in researching how labeling myself or identifying myself as an American vs Mexican vs Mexican-American vs Latina vs Hispanic affects the treatment, assumptions, and/or expectations of the Japanese people towards me and other American minorities. I hope this research will bring awareness about prejudice and discrimination against foreigners in Japan... I would like to thank the Kinshuku-sansankai benefactors for supporting me and my studies. This stipend will help me pay for the next semester's tuition.



REIBER ZACHARY BENJAMIN レイバー ザッカリー ベンジャミン、グローバル社会専攻、カナダ

Your award has been very beneficial in maintaining my ability to continue my studies here at Sophia and for that I am truly grateful...A focus of my studies is delving into what some countries do particularly well and how such successes can be brought to different countries to improve them. In my short time living in Japan so far there are so many incredible aspects of Japanese society that I think other countries can look to and improve on and I hope to play a role in such implementation at some point in my life.



TRAN THI TAM THANH チャン ティ タム タン、グローバル社会専攻、ベトナム社会主義共和国

私の研究は、ベトナムと日本の開発政策がベトナム人移民労働者に与える影響を評価するものです。この研究を通じて、日本の現在または元ベトナム人移民TITP技能実習制度参加者の成果を評価し、TITP政策の改善提案を行い、日本とベトナムのパートナーシップの促進に貢献したいと考えています。金祝燦燦会の温かい支援と篤志家の方々の寛大な寄付により、私の学業に専念することができる素晴らしい機会をいただきました。この奨学金は私の夢を追求し、より高度な教育を受けるための重要なバックアップとなります。

ローラさんは
修士号を取
得し、帰国し
ました

PENALVER LAURA ペナルバ ローラ、グローバル社会専攻、アメリカ合衆国

Your generous gift has enabled me to focus on completing my graduation requirements and look forward to starting my career in Tokyo. With this scholarship, I will be able to gather enough resources to pay my last semester of tuition and complete my studies. I sincerely thank the benefactors for making me eligible to receive this financial aid at such a crucial moment.



CHEN MINGCHEN チン メイシン、理工学専攻、中華人民共和国

I believe that I won't feel as pressured to worry about money in the future. Because of the doctoral program, I want to go to more conference and learn more knowledge. And if there is enough financial support, I think I can not only get better in life, but also expand my knowledge. I think this is of great help to my current doctoral program.



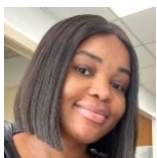
CHUKWUDOLUE OKWUCHUKWU HYGINUS チュクウドレエ オクウチュクウ ヒュギヌス、地球環境学専攻、ナイジェリア連邦共和国

Words can't describe how happy and grateful I am for this amazing opportunity. This scholarship will be a huge relief for me and will go a long way in helping me cater for some of my living expenses and most especially reducing the stress and pressure in meeting up financially for the moment.



ANYOH CARINE TABOH アンヨー カリーヌ タボ、地球環境学専攻、カメルーン共和国

Presently my situation is not the best because I barely manage to survive since I came to Japan I lost my father months after and I was doing a part-time job to help me meet up with my expenses. I found out I was pregnant, and I had some complications. I was bleeding and was told to stop working for the duration of my pregnancy. I will give birth through an operation upon. I am so grateful because this scholarship came at the right where it will help me carry out my research work and also get some of my school needs and it will also help me for my daily activities.



KORIE MIRIAN CHIGAEMEZU コリエ マリアン チガエメズ、地球環境学専攻、ナイジェリア連邦共和国

It will enable me to invest more time and energy in my research endeavors, allowing me to explore new avenues, and gather essential resources that will contribute to the advancement of knowledge in my field. Moreover, the scholarship will greatly aid in covering my educational expenses, such as research materials, and conference participation. This assistance will lighten my financial burden and allow me to focus on my studies and research, ultimately helping me achieve my academic and career aspirations.



CHAK MAN CHIT ジャク マンチット、言語学専攻、中華人民共和国(香港)

I am also excited to mention that I am eager to participate in Sophia Goldenagers' Club activities in the future, which would provide me with incredible networking opportunities that will allow me to contribute to the community and make a positive impact in my field. I am inspired by your dedication to promoting education and nurturing future leaders, and I sincerely look forward to joining your future activities.